



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



2021年1月9日朝刊

記事を読んで、問いに答えましょう。

西浦小消防クラブ 沼津 40年の歴史に幕

①「西浦小消防クラブ」が結成された目的は何ですか。

②このクラブでは、今までどんな活動をしてきましたか。

③このクラブが40年間続いた歴史に幕を下ろすことになった理由は何ですか。

地域の防火意識向上に取り組んできた沼津市立西浦小の少年消防クラブが、2021年1月の活動を最後に40年間続いた歴史に幕を下ろす。学校の統合に伴う解団で、児童らは各家庭の「消防リーダー」となり、地域に根付いた防火の願いを受け継いでいく。



拍子木を打ち鳴らして防火を呼び掛ける児童
＝沼津市内

児童ら防火の願い受け継ぐ

クラブは4～6年生で編成し、本年度は31人が活動する。子どもが火災予防の知識を養い注意喚起することで、地域の意識を高めようとして1981年に結成。卒団者は40年間で約850人に上る。拍子木を打ち鳴らし

巡回するチャキチャキ運動や、同市西浦江梨の国指定天然記念物「大瀬崎のビャクシン樹林」での防火訓練など、地域ならではの活動を継続してきた。クラブは積極的な活動を展開した団体に贈られる消防庁長官

み、活動を締めくくる。団長の小沢悠那さん(12)は「解団しても地域の人にはクラブを忘れないでほしい。家での呼び掛けなどできることは続けたい」と力を込めた。
(東部総局・大石真聖)

表彰を2度受賞するなど、高い評価を受ける。同校卒業生で駿東伊豆消防本部予防課の相磯匡哉さん(30)は「西浦は住民の共助意識が高い。防火を呼び掛けながら巡回すると住民が家の前で声を掛けてくれた。地域全体が火災に注意するきっかけになっていたと感じる」と語る。
11月下旬、同消防本部沼津南消防署の署員らと展開した最後のチャキチャキ運動。拍子木を打ち鳴らし「火の用心」と声をそろえて練り歩いた。「たばこの投げ捨てはやめよう」「空き地の枯れ葉は刈り取ろう」と声を響かせた。相磯さん(12)は「防火活動の大切さを学び、自分の意識も高まった」と話した。21年1月23日に4年生がビャクシン樹林での防火訓練に臨

④このクラブの卒団者には、どのような意識が残ると考えられますか。

年 組 名前

作問者：静岡新聞NIEコーディネーター 矢沢和宏

(小学校高学年～中学校／社会、総合)



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



2021年1月9日朝刊

記事を読んで、問いに答えましょう。

解答例

西浦小消防クラブ 沼津 40年の歴史に幕

①「西浦小消防クラブ」が結成された目的は何ですか。

子どもが火災予防の知識を養い注意喚起することで、地域の意識を高める(目的)。

②このクラブでは、今までどんな活動をしてきましたか。

拍子木を打ち鳴らして巡回するチャキチャキ運動や大瀬崎ビヤクシン樹林での防火訓練など。

③このクラブが40年間続いた歴史に幕を下ろすことになった理由は何ですか。



拍子木を打ち鳴らして防火を呼び掛ける児童
＝沼津市内

児童ら防火の願い受け継ぐ

クラブは4〜6年生で編成し、本年度は31人が活動する。子どもが火災予防の知識を養い注意喚起することで、地域の意識を高めようとして1981年に結成。卒団者は40年間で約850人になる。拍子木を打ち鳴らし

巡回するチャキチャキ運動や、同市西浦江梨の国指定天然記念物「大瀬崎のビヤクシン樹林」での防火訓練など、地域ならではの活動を継続してきた。クラブは積極的な活動を展開した団体に贈られる消防庁長官

み、活動を締めくくる。団長の小沢悠那さん(12)は「解団しても地域の人にはクラブを忘れないでほしい。家での呼び掛けなどできることは続けたい」と力を込めた。
(東部総局・大石真聖)

表彰を2度受賞するなど、高い評価を受ける。同校卒業生で駿東伊豆消防本部予防課の相磯匡哉さん(30)は「西浦は住民の共助意識が高い。防火を呼び掛けながら巡回すると住民が家の前で声を掛けてくれた。地域全体が火災に注意するきっかけになっていたと感じる」と語る。
11月下旬、同消防本部沼津南消防署の署員らと展開した最後のチャキチャキ運動。拍子木を打ち鳴らし「火の用心」と声をそろえて練り歩いた。「たばこの投げ捨てはやめよう」「空き地の枯れ葉は刈り取ろう」と声を響かせた。相磯さん(12)は「防火活動の大切さを学び、自分の意識も高まった」と話した。
21年1月23日に4年生がビヤクシン樹林での防火訓練に臨

学校の統合に伴う解団のため。

④このクラブの卒団者には、どのような意識が残ると考えられますか。

(例) 解団しても家での呼びかけは続けよう。
防火活動の大切さや防火意識の高まり。
地域全体で声を掛け合って火災に注意する意識。 など

年 組 名前

作問者: 静岡新聞NIEコーディネーター 矢沢和宏

(小学校高学年～中学校/社会、総合)